

校長室より

二松学舎大学附属高等学校  
校長 鵜飼敦之

## 「二松から飛翔へ」～ 一期一会 ～

### 生徒表彰

部活動や懸賞作文・「税の標語」、各種検定試験などで頑張った生徒達を表彰しました。常に前向きに挑戦し続ける生徒達を誇りに思うとともに、応援していきます。

学校ブログ「学舎の窓」や『二松だより「若鮎の群像」』でも日頃の生徒の活躍を紹介しています。是非ご覧ください。



### 2 学期終業式より ～「言霊（ことだま）」～



今日は年の終わりに「言葉」について、考えてみたいと思います。

人は「言葉」という形で声に出すことで自分の考えを自分自身の内面から外部に移すことになります。そしてその瞬間に周囲の世界に何らかの影響を及ぼすことになります。言葉は人に何かを伝えるために、人間関係を築いていくためには不可欠なものです。しかし、相手の状況を考えない言葉は、思い通りに伝わらないこともあります。

『言霊（ことだま）』という言葉を知ったことがありますか？ 言葉には霊力・魂が宿ると信じられてきました。私たちの口から出た言葉は周りの人に影響を及ぼす力があるのです。良い言葉を使えば良いことが起こり、悪い言葉を使えば悪いことが起こると考えられてもいます。その代表が「あいさつ」です。

「あいさつ」は漢字で『挨拶』と書きます。挨拶の語源は仏教用語で、「挨」の意味は心を開く、といった意味があり、「拶」は近づく、といった意味があるそうです。『心を開いて近づく』素敵なことですね。

朝起きてまずする挨拶は「おはようございます」ですね。これは「お早くからご苦労様です」というねぎらいの言葉だそうです。

そして、家族が仕事に出かけるときには「行ってきます」と言いますよね。「行ってきます」は「行きます（が、必ず帰って）来ます」という意味があるそうです。大切な人を残して出かける事への愛情のこもった言葉ですね。

「行ってきます」に返す言葉が「行ってらっしゃい」。これも「行く」と「帰る」の2つの意味があり、「お出かけですが、お元気で帰りください」と大切な人を見送る愛情のこもった言葉です。

自分自身に手を当ててみると、家族のだれかが「行ってきます」といった時に心を込めて「行ってらっしゃい」といっているだろうか……と 相手を見もせず、リビングでソファに座りながら、テレビを見ながら、「行ってらっしゃい」と言っていることがあるのでは…と反省します。

「おかえりなさい」は無事に帰ってきてくれた事へのお礼と喜び、外で背負って連れてきてしまった邪なるものに対して「元の場所にお帰りなさい」という意味があるとか…

「いただきます」は命をいただくという感謝の気持ち。

「ありがとう」は有るのが難しい、滅多にあることではないという意味。

言葉の語源や意味を知る前と後では明らかに挨拶の重みが変わってきませんか？

そして、「おはようございます」

朝、玄関に立っていると、皆さんの挨拶もさまざまです。自ら先に「おはようございます」と挨拶をする人、立ち止まって礼を正して挨拶をする人、ぺこりと頭を下げ通る人、歩きながらマスク越しに挨拶を返す人、声を出さず口だけが「おはようございます」となっている人、そして何のアクションの無い人…

小学生の男の子がお母さんと一緒に学校の前を通るのですが、元気よく「おはようございます」と自分から挨拶をしてくれます。こちら「おはよう。行ってらっしゃい」と返して、朝から心晴れやかな気分になります。かつて皆さんも小学生だったころは自らすすんで同じように近所の人や他人に挨拶をしていませんでしたか。それがいつからか成長するにつれ、気恥ずかしかったり、周囲の目を気にして、声を出さなくなっているのではないのでしょうか。

自分の思いを相手に届けるには、声を出して、目を合わせることが大切です。

言葉は「言霊」です。心を込めて伝える挨拶を大切にしてください。

## 学校評価委員会 ～外部の視点を学校運営に生かして～

本校では年に三回、外部委員の皆様をお迎えし、学校評価委員会を開催しております。委員には、地元町会代表の方をはじめ、大妻女子大学教職センター、麴町消防署、千代田区教育委員会、二松學舎大学、同窓会、父母の会、二松柏中学・高等学校の関係者など、地域・教育・安全等の各分野から幅広くご参加いただいています。

委員会では、学校の教育方針や日々の教育活動、生徒の様子、今後の取組について報告し、それに対して率直なご意見やご助言を頂戴しました。委員の皆様からは、「生徒の目線に立って、教員が丁寧に指導を行っていることが伝わってくる」「学校全体として落ち着いた教育環境が保たれている」といった、温かくも心強い評価をいただきました。

一方で、今後の教育を見据えた課題として、AI の活用をはじめとする新しい学びへの対応や、社会の変化に即した教育の在り方についてのご意見も寄せられ、学校として改めて考える貴重な機会となりました。

外部委員の皆様からのご意見は、学校の取組を客観的に見つめ直し、より良い教育活動へとつなげていく上で大変重要なものです。今後もこうした対話を大切にしながら、地域に信頼され、生徒一人ひとりの成長を支える学校づくりに努めてまいります。

